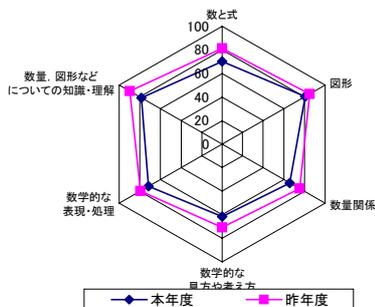


宇都宮市立瑞穂野中学校第2学年【数学】領域別／観点別正答率

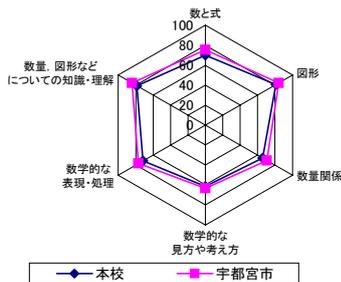
★本校の本年度と昨年度の状況

		本校	
		本年度	昨年度
領域別	数と式	70.1	81.3
	図形	80.8	85.2
	数量関係	65.9	75.4
観点別	数学的な見方や考え方	61.4	70.8
	数学的な表現・処理	71.5	79.5
	数量、図形などについての知識・理解	78.7	89.8



★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と式	70.1	75.4
	図形	80.8	84.0
	数量関係	65.9	70.5
観点別	数学的な見方や考え方	61.4	63.2
	数学的な表現・処理	71.5	76.8
	数量、図形などについての知識・理解	78.7	83.9



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式 (70.1%)	全般的に宇都宮市の平均正答率よりも低い。式の計算は概ね理解できているが、文字式の値については理解が不十分である。特に、文字式の利用においては、平均正答率36%と低く、理解が不十分である。	文字に数字を代入し、計算する反復練習を行いながら、文字式の基本を理解させる。また、文章から数を文字を使って表す練習に重点をおく必要がある。
図形 (80.8%)	ほとんどの問題の平均正答率が80%を越え、他の領域の平均正答率よりも高い。多角形の角や三角形の合同に関する問題は理解できている。三角形の合同の証明に関する問題の平均正答率は58.8%と低く、理解が不十分である。	証明の記述の仕方については、最初穴うめの問題などで練習を繰り返し、その流れを覚えさせ、徐々に全てを記述できるよう指導する。
数量関係 (65.9%)	全般的に宇都宮市の平均正答率よりも低く、領域の中では最も平均正答率が低い。1次関数のグラフと直線の式に関する問題については平均正答率が70%を超えているが、2点を通る直線の式や1次関数の利用に関する問題の平均正答率が60%前後と低く、理解が不十分である。	2点を通る直線の式の求め方は、基本的に文字式の値の計算と考え方は同じで、文字に数字を代入し、その後連立方程式として解く。その手順を繰り返し指導し、手順の意味を理解させる。1次関数の利用については、具体的な事象の中の数量関係を読み取る問題演習に重点をおく。